

ソフトボールの歴史と展望

A study of the history and the prospect about softball.

1K05A234

指導教員

主査 石井昌幸先生

横山 大

副査 誉田雅彰先生

筆者は、小学 4 年時から現在に至るまで、13 年間「ソフトボール」という競技を続けてきた。特に早稲田大学スポーツ科学部に入学し、体育会ソフトボール部に入部したことで、ソフトボールの持つ二面性を肌で体験することができた。二面性というのは、大衆性のレクリエーションソフトボール(スローピッチ)と、競技性のスピードとテクニックの要求されるソフトボール(ファーストピッチ)の二面性である。また、筆者は青年海外協力隊員としてソフトボール・野球を普及させるためにアフリカに行きたいと考えている。ソフトボールは、筆者にとって大学生活の大半を占めていただけでなく、人生の大半を占めると言っても過言ではないだろう。しかし、筆者は正確なソフトボールの歴史も知らなければ、詳しい世界の現状も知らない。そのため、この機会に「ソフトボール」について研究してみようと思うに至った。また、今年(2008 年)行われた北京オリンピックでは日本は見事金メダルを獲得した。空前のスター上野由岐子投手の出現によって、ソフトボールは一躍脚光を浴びた。流行語大賞審査員特別賞に「上野の 413 球」が選出される程である。しかし、2012 年のロンドンオリンピックからソフトボールと野球はオリンピック種目から除外されてしまう。なぜ除外されてしまうのか。どうしたらソフトボールがオリンピック種目に戻されるのか。研究していきたいと感じた。

第一章では、ソフトボールの歴史について述べている。ソフトボールの起源は、いくつかの説がある。

その中でも一番有力なのは、「英国において

12・13 世紀に行われたクリケットから派生したと考えられているスツールボールやラウンダースを経て、米国に移入されソフトボールが誕生した。」という説である。「ソフトボール」という名称は、1926 年 YMCA 主事のウォルター・ホカンソンによって、初めて用いられた。

第二章では、世界におけるソフトボールということで、世界から見てソフトボールはどう認知されているのか、どういった国や地域で盛んに行われているのか、どこの国が強く、ソフトボールを引っ張っていかなければならないのか、記述している。この章では、国際スポーツ連盟(ISF)の加盟国や ISF の行っている普及活動についても具体的に述べている。ISF は、ソフトボールの普及していない国々に道具を寄附したり、指導者を派遣したりしている。世界の国々の半分に道具を送ることはできているが、指導者は 4 分の 1 しか派遣できていない。これからは、派遣者の人数を増やすことが課題になってくるだろう。また、世界のソフトボールの現況を知りたいので、アメリカなどにおける歴史や現況にも触れている。

第三章では、日本のソフトボールということで、日本でソフトボールが発展した歴史を述べている。また、日本代表チームの歴史や実績、オリンピックに出場するまでの経過も述べている。悲願のオリンピック出場、そしてメダルの獲得。さらに、日本ソフトボール協会の歴史、普及活動にも触れている。

早稲田大学ソフトボール部の「ティーボール」を

通じた普及活動にも触れている。

終章では、ソフトボールの展望について、今まで述べてきた歴史を踏まえて、これからどうなるのかを述べている。北京オリンピックで一躍脚光を浴びたソフトボールは、ロンドンオリンピックでは正式種目から除外されてしまう。これからソフトボールはどうなっていくのか。人気は高まっていくのか。

それとも衰退していつてしまうのか。

今ソフトボールは転換期に差し掛かっている。普及活動を行うのは今しかないのではないだろうか。

今こそ、世界の頂点に立った日本がリーダーシップを発揮して、ソフトボールの普及活動に積極的に取り組むべきである。